



## 優秀賞 若林 万由佳 (わかばやしまゆか) 鶴友学園女子中 1年生

作品名：関心を持つことの大切さ

図 書：そして、星の輝く夜がくる

形あるものは必ず減びる、これを忘れてしまうとどうなるのか。私は『そして、星の輝く夜がくる』の中の第二話「“ゲンパツ”が来た!」を読んで東日本大震災での原子力発電所の事故について深く考えさせられた。

「“ゲンパツ”が来た!」は父親が東京電力福島第一原子力発電所に勤務している男子が東日本大震災での原子力発電所の事故で悪口を言われることから始まる。それをきっかけに電気、原子力発電所の事故について周囲の人と考える話だ。その男子は原子力発電所の事故についてこう言う。

「原子力発電所の危険性について、東京電力は電力会社として、事故が起きる前から伝えてきた。しかし、安全だと自信を持っていながらも、事故が起きてしまった。そんな中で東京電力の人だけが悪く言われる。だが、毎日、電気を使っている私達はどうなのだ。事故が起きる前は関心を持たず、事故が起きたから、被害者というのはおかしいのではないか。」

私はこの言葉で自分のことを思い出した。私は、事故が起きる前は全く、原子力発電所について知らなかった。しかし、東日本大震災で原子力発電所の危険性について知ると、危険なのになぜ発電させていたのかと思ってしまった。これは、東京電力だけが悪いのではなく、原子力発電所について知ろうともせず、普段から電気を当たり前のように使っている私達もいけなかつたのではないかということに気づかされた。

では、なぜ、原子力発電所の危険性について私達は関心を持たなかつたのだろうか。それは、形あるものは必ず減びる、ということを忘れていたからではないだろうか。いつもあると思うと気にしない電気。しかし、東日本大震災で原子力発電所の事故が起きて電気が減ってしまうと困り、そこで初めて電気や原子力発電について関心を持つ。このことはついつい忘れがちになる。これは電気に限らず、地下資源や環境問題でも同じだ。地下資源は後何十年かでなくなってしまうかもと近年騒がれるようになってきた。環境問題ではオゾン層の破壊が代表的である。オゾン層はフロンガスの増加により破壊されつつあり、最近は新

聞やテレビで取り上げられるようになってきた。地下資源もオゾン層も滅びてはいないが、滅びそうになると人々は関心を持ち始める。しかし、このような状態では同じ事のくり返しになりかねない。そのためには日頃から、形あるものは必ず滅びるということを自覚することが必要だと思う。

私は、この本を読み、東日本大震災の原子力発電所の事故を通して、形あるものは必ず滅びるということを日頃から自覚する大切さについて考えた。それは、自分の周りで起きている出来事に日頃から関心を持つということだ。私はこのことを実践していくとともに誰かにこの大切さを伝えていく側になりたいと思う。